

Ryoyu PRESS

みんなで支える僚友同窓会

僚友同窓会報誌
令和5年8月1日発行 (Vol.7)

CONTENTS

- ・シリーズ 巻頭企画「あの人に聞きたい！」
羽隅将一氏 片桐夏海氏 渡部博文氏
- ・令和4年度総会報告
- ・ウィリアムソン師円の言葉
- ・弓道場改修落成式



Watanabe

レノファ山口社長 渡部博文 氏
現役リリーガーからJクラブ社長就任



Katagiri

環太平洋大学教員 女子柔道 片桐夏海 氏
UNIVAS AWARDS 2022-23
コーチ・オブ・ザ・イヤー優秀賞受賞



Hasumi

NHK山形放送局 羽隅将一 氏
やままる山形のアナウンサー



発行 山形中央高等学校僚友同窓会
〒990-2492 山形市鉄砲町2丁目10-73
山形県立山形中央高等学校内
TEL (023) 641-7311 FAX641-7313



令和4年度の活躍と令和5年度「地域と世界に挑戦できる学校」を目指して

校長 佐藤 裕恒

僚友同窓会の皆様には、日頃より物心両面にわたってご支援・ご協力をいただきあらためて心から感謝申し上げます。

【令和4年度の頑張り】

新型コロナウイルス感染症に対して気の抜けない状況ではありましたが、現状を理解し工夫しながら学習活動や探究活動に努力し、「チーム山形中央」の意識で「生徒と職員がワンチーム」でチャレンジし、これまで培った力を思う存分に発揮してくれました。

これまでの努力の成果を振り返りますと、学習面ではコロナ禍での受験となり、対応に苦慮した面もありましたが、4年制大学321名（国公立47名（44）、私立273名（126）、防衛省所管1名（1））、短期大学17名（11）、看護・医療系を含む専門学校等に36名（34）《数字は延べ合格者数へ》は進学者数・警察官や県職員などの公務員や民間企業に14名が合格するなど、粘り強い取り組みで個々の進路目標を達成しています。

スポーツ・文化活動においても素晴らしい活躍を見せてくれました。県高校総体ではバレーボール部・ハンドボール部・女子バスケットボール部・サッカー部・陸上競技部・水泳部の6部が全国高校総体の出場し、中でも陸上競技では2種目で準優勝するなど素晴らしい結果を残しています。他にも5度目の甲子園を目指した野球部は、決勝で惜敗したものの準優勝に輝き、その後の秋の県大会では優勝し選抜出場にあたり1歩及ばずでしたが、全校一体となった応援を含めて見ている者に感動と勇気を与える素晴らしい戦いとなり、令和5年夏こそは甲子園出場を、と意気込んでおります。弓道部女子団体の全国選抜大会出場、冬季競技においてもスケート部の国体やインターハイでの入賞、スキー部は地元インターハイで入賞とはいきませんが、次につながる素晴らしい滑りを見せてくれました。女子バスケットボール部のウインターカップ、バレーボール部の春の高校バレーでの活躍は全国上位レベルの実力を感じさせる戦いでありました。

文化活動においても吹奏楽部が東北吹奏楽コンクール金賞、美術部は美術工芸部門で県高美術賞・特選を獲得し全国高総文展（R5）への出品が決定、文理科学部も全国高総文展へ出場しています。演劇部をはじめ各部とも、定期公演や各種発表会を通して普段の練習成果をしつかりと見せてくれました。また「総合的な探究の時間」を通して得られた興味関心と文理科学部の活動が融合した活動を展開し、郷土山形探究コンテストにおいて優秀賞を獲得するなど、探究力を育む活動が

年々充実してきています。

【令和5年度「地域と世界に挑戦できる学校」を目指して】

令和5年度、2023年は「卯年」、きつと今までの数年間から「飛躍・向上」の3年になるのではないかと思っています。校歌の3番に「混沌の世界を望み君は船出する。さあ友よ肩上げてここにきそって。今日の日を決意新たに進もうわれらわれら山形中央、輝く中央」。この内容を深く考えると、まさに今の世の中を示し、私たちが進むべき道を示唆していると感じます。「校歌のように、明るく、強く、輝く中央高校生」に成長してほしいと強く願っているところです。また今年度、本校のキャッチコピー「スクールポリシー」を策定し、山形中央高校ってどんな学校なの？どんな学びをしているの？どんな人を育てるの？ということをも具体的に示して中央高校の魅力発信しているところですよ。（詳細は是非ホームページをご覧くださいと思います）

ここではスクールポリシー策定の柱となった本校独自のキャッチコピーについて説明したいと思います。キャッチコピーは「地域と、世界に、挑戦できる学校」です。☆地域に挑戦できる学校☆世界に挑戦できる学校☆地域とともに世界に挑戦できる学校《地域・世界の考え方》については「地域に挑戦」↓地域（生徒が活動・生活している場所）とつながる、様々な高校の仲間が集い、協働、実践する。中心となる機能の確立・スポーツや文化活動が地域を活性化。「世界に挑戦」↓様々な分野（世界）に挑戦。地域や専門分野で培った力を生かし世界（stage）に挑戦。「地域とともに世界に挑戦」↓中央高校での学びと地域と協働して得た力を活用し、郷土愛を大切に、世界（分野・stage）に挑戦する。このような学校を目指してスクールポリシーの内容を生徒・職員が共有し教育活動を展開していくこととしました。さらに今年1年「挑戦」やりきる。「思いやりの心」を大切にチーム山形中央の意識で、生徒・職員ワンチームで何事にも取り組んでいきましょう。という言葉をも掲げて「普段」を大切に取組んでいくところでもあります。



これからの同窓会・初心に帰る

会長 長田 栄一

僚友同窓生の皆様、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。日頃より僚友同窓会の運営にご協力ご支援いただき厚く御礼申し上げます。

3密・自粛・クラスター・医療崩壊・臨時休校……。企画しては中止の繰り返し。世界中が新型コロナウイルス感染症に悩まされた3年間でしたが、ようやく鎮静化に近づいてきました。

一方でロシアによるウクライナ侵攻などの影響もあり、当たり前の日常生活を取り戻すには、まだまだ時間がかかりそうな気がします。

母校は、昭和21年に公民校として開校。市立、県立第六高校へと変遷し、昭和25年に県立山形中央高校になりました。5月1日に77回目の創立記念日を迎えました。私は、祝辞で『僚友同窓会』の謂れである『僚友歌』の話をしました。校歌が制定されたのが、昭和36年です。それ以前は雨谷憲作先生作詞・工藤八郎先生作曲の、『僚友歌』を歌っていました。例えば早稲田大学には「栄光の歌」があり、慶応義塾大学には「塾歌」があります。それと同じように、『僚友歌』は、心を奮い立たせる友情・団結・前進・切磋琢磨の『建学の歌』として歌われてきました。僚友同窓会の名はここから由来しています。

平常に向かうこれから。僚友同窓会

は初心に帰り、僚友の親睦と福祉の向上、全国大会・国際大会出場の生徒達への活動援助など母校発展のため様々な事業を展開して行きます。そのためにはより一層の『同窓力の結集』が必要です。急速に変化する今。更なる進化を続ける山形中央高校。それを支える我ら僚友同窓会。各方面で活躍する僚友の皆様には、自己の可能性を広げる為に同窓会を活用していただければと思います。

今年の僚友同窓会総会は9月22日（金）『パレスグランデール』で開催します。久しぶりの旧友との再会や、同窓の方々と活発な交流を重ねていただく事を期待します。是非お誘い合わせの上、沢山のご参加をお待ちします。大きな母校の輪を作りましょう。幹事学年は59回・46回・35回卒です。

次に、同窓会の現状ですが、運営費は新入会員（卒業生）の入会金に頼っています。卒業生が240名と大幅に減少し、同窓会運営は非常に厳しい状況です。現在『会費納入増進計画』を展開中です。母校への支援と、2万1千余名の同窓会の維持継続の為に会費納入で、ご支援を賜りますようお願い致します。

最後に皆様のご多幸ご健勝を祈念申し上げます。

令和4年度総会報告

令和四年度総会は、九月二十三日金曜日、午後六時より山形国際ホテルで三年ぶりに開催されました。事前申し込み制での入場者数は約九〇名で開かれました。総会では、まず物故会委員に黙祷を捧げました。続いて、長田栄一同窓会長より挨拶をいただき引き続き議事に入りました。第一号議案「令和三年度事業報告」は拍手で承認されました。第二号議案「令和三年度 一般会計及び特別会計決算報告と監査報告」は伊藤豊務局長より報告され承認されました。第三号議案「山形中央高校僚友同窓会役員（案）」、第四号議案「令和四年度事業計画」、第五号議案「令和四年度 一般会計予算について」も事務局の提案の通り、承認されました。

会場整理後は、懇親会に入り新型コロナウイルスへの対応を徹底しながらの祝宴となりました。中心となつて運営に当たった五十六回卒業、五十七回卒業、五十八回卒業、四十三回卒業、四十四回卒業、四十五回卒業、三十二回卒業、三十三回卒業、三十四回卒業の当番学年の皆さんに御礼申し上げます。

令和五年度総会は、九月二十二日金曜日、午後六時十五分から「パレスグランデール」で開催します。「参加して楽しい同窓会」が合い言葉です。つながりを大事に会員多数の参加をお待ちしています。

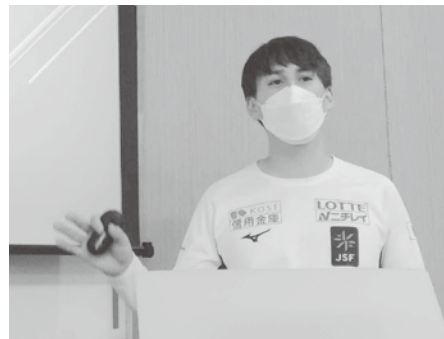


ウィリアムソン師団の言葉

『つぎの世代へ』

ウィリアムソン 師団

昨年3月に9年間のスピードスケートの日本代表活動に一線を引き、山形に帰ってきてから1年が経過しました。蔵王温泉で勤めながら後進の育成に携わり、自分自身も国体に向けてトレーニングする日々にならず慣れてきたものの、指導というものはいつになっても難しい。現役の時は自分が速くなるために、自分だけが理解できていればよかったものを今度は相手理解できるまで噛み砕きアドバイスをしなればならない難しさというものの一年で痛感しました。それと同時に恩師である椿央先生の偉大さ感じました。今年度は、高木美帆選手が立ち上げた「TeamGOLD」のアシスタントコーチを兼任することになったこともあり、世界のトップレベルを肌で感じる非常に刺激的なコーチ2年目を送っています。山形中央高校の選手たちが目標達成に向けて突き進んでいけるように自分がしてきた経験、新しく取り込んだ知識で未来へ還元できたらと思います。



弓道場改修落成式



旧松山校舎跡地にある『弓道場改修落成式』が、6月16日に現地で行われました。今までの弓道場は老朽化が激しく、このたび本校・教育後援会・僚友同窓会により整備が行われました。式では、佐藤裕恒校長の挨拶と現状説明があり、弓道部主

将の『奉射』が行われました。現在の弓道部員数は46名。男子は今季の県大会で優勝、インターハイに出場します。女子は、昨年度インターハイに出場しました。強豪校として一層の活躍を期待します。



【巻頭企画】

あの人に聞きたい！高校時代から今日まで、今も忘れないあの瞬間！



部活は人生のエネルギー源

羽隅 将一 第41回卒業

■高校生活は野球一色

3年間野球部でした。当時は日大山形と東海大山形の2強時代。中央高野球部は今とは違って無名のチームでした。そんななか、3年の春の県大会で東海大山形に勝利。しかもコールドで。その後も勝ち進み、県



で準優勝。東北大会へ。青森県営球場で福島県の代表と戦いました。雨の中でのシーソーゲームの末、1点差で敗れました。私はレフトを守り、打撃面ではいいところがありませんでした。あとで聞いたところ、同級生たちが、教室でラジオ放送を聞きながらみんなで応援してくれていたそうです。何気ないことかもしれませんが、遠くで声援を送ってくれた彼らの思いを想像すると、今でもうれしさがこみあげてきます！



■運命的な仕事

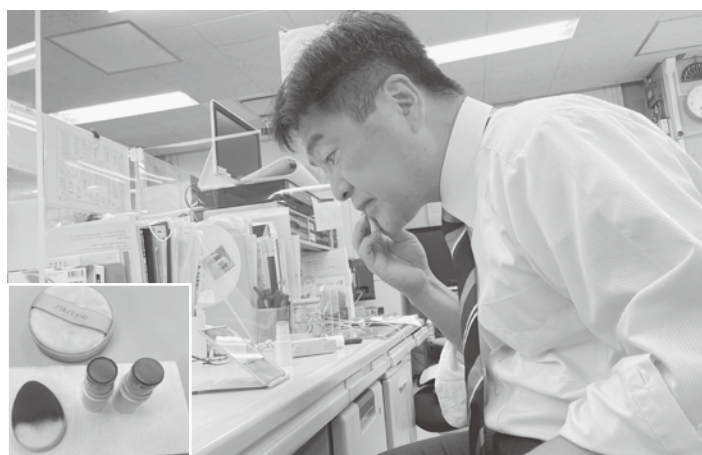
大学を卒業し、NHKにアナウンサーとして採用されました。きっちんとした言葉を話せる大人になりたいという思いの先にその仕事がありました。初任地は盛岡局。仕事の1つに高校野球の実況があります。アナウンサー3年目、東北大会の試合を担当することになりました。会場は青森県営球場。なんと東北大会でプレーした場所でした。放送する立場として再び足を踏み入れました。今度はユニホームではなく、スーツ姿で。球場に入りバックネット裏からグラウンドを眺めました。「懐かしいなあ」と思い出に浸っていると、驚くことに当時の監督が山形県高野連の役員として来ていたのです！

「監督さん！」と声をかけ、少し白髪の増えた監督と当時の話で盛り上がりました。あれから25年。母校との縁は続きます。去年秋、山形県大会の決勝で実況を担当。母校の優勝のシーンを実況することが出来ました！！野球部OBとしてこんなに幸せなことはありません。私情が入って不公平な放送にならないように頑張りましたよ（笑）。

■後進へのメッセージ

社会人になると、たまにですが、気分が落ちることがあります。そんなときに中央高で過ごした日々を振り返るとちっけなものに思えるのです。二度と戻れない高校時代です。

が、高校生らしく過ごした日々が、今の自分を支えているように思えます。



Profile

1970年山形市生まれ。県立山形中央高校を経て早稲田大学商学部卒業。NHKにアナウンサーとして入局。東北、北海道、東京で勤務。東京ではBSニュースキャスター、衆議院選挙キャスター、国会中継、報道番組ナレーションを担当。現在は山形局で、ニュースのほか、高校野球実況、選挙報道、番組制作、AI活用を担当。



柔道から学び、成長し 縁を大切に生きる

片桐 夏海 第59回卒業

高校時代の思い出を振り返ると、同級生の部員たちとは家族以上に、四六時中一緒に過ごし、支え合った3年間がありました。特に、合宿中に体調が悪くなった時のエピソードは、今でも鮮烈に思い出されます。合宿先で夜中に体調が急に悪化し、心細い気持ちでいると、いつも一緒に過ごしていたTさんが何かを感じ取ったようで、急に目を覚まし、「どうしたの?」と声をかけてくれたのです。私が「気持ち悪い」と伝えると、「トイレに行つておいで」と。一緒についてきてくれなかったものの(笑)、彼女の言葉は私を安心させてくれました。今でも、その思い出を振り返ると、笑いとともにながら温かくなります。

私が大学でも柔道が続けることを決めたのは、高校2年生の冬でした。当時は美容関係に興味を持っており、大学での柔道継続はあまり意識していませんでした。高校2年生が終わる頃、高校生活がラスト1年となった時に、最後に結果を出したいとい

う気持ちで想像する以上に湧いてきました。すると、自分の理想だけが先走り、不安ばかりを感じ、毎日やり残したことはないか、今日1日を終えて寝ても大丈夫だろうかと思ひ込まれる感覚になりました。そんな時ふと、大学でも継続すると今決めることができたなら、高校3年間なんて通過点でしかないと思え、何故か気持ちが楽になりました。この気持ちを経験したことが、当時の私にとって大学で上を目指そうと決めた大きなきっかけでした。

私が入学した大学は、柔道部の創部が同時期で、私たちは入学1期生として柔道部に所属しました。当時の総監督は、今は亡き古賀稔彦先生、監督は寝技のスペシャリストとして知られる矢野智彦先生でした。私は初代主将として4年間主将を務め、創部4年目にして全日本学生団体戦で日本一の経験をすることができました。私は、大学にて柔道を手段として人間として成長すること、そして勝利の追求から本当に学べることを知ったことで、柔道が初めて好きになりました。そして、柔道に魅了され、大学卒業後は、オリンピック選手を輩出する実業団チームに所属

し、世界では活躍できませんでした。が、個人戦で日本一を経験することができました。

現在は、母校の大学にて体育社会学を専門とする教員であり、柔道部のコーチとして務めています。古賀先生や監督が築いた柔道部の理念を大切にしながら、私自身が柔道に魅了されたように、そして柔道から学ぶことの本質に気づかされたように、選手たちが真の主役となる指導を心がけています。

私自身まだまだ未熟ではありますが、私が感じること、人との縁やつながりが本当に大切であることです。そして、その縁やつながりは自分自身の意志と素直な心が要になっていることを改めて認識しています。人との出会いや縁は、自分自身の成長や人生において大きな役割を果たすことが多いと思います。母校の発展を心より願っております。



Profile

父の影響で柔道を始め、山形大学附属中学校から山形中央高校を経て、2007年に環太平洋大学に進学し、同大学の柔道部の1期生となる。大学3年の時、都道府県対抗全日本女子柔道大会で岡山県チームの代表として出場し、優勝に貢献。大学4年の時には体重別団体で優勝を果たす。卒業後は実業団チーム、コマツに所属し、2013年の講道館杯で優勝。

現在は、母校である環太平洋大学の教員であり女子柔道部のコーチとして、後進の指導にあたり、2022年、UNIVERSITY AWARDS コーチ・オブ・ザ・イヤー優秀賞を受賞している。

スポーツクラブOB訪問（サッカー部編）

渡部 博文 第58回卒業

山路 一哉 第57回卒業

石山 廣昭 第31回卒業

私は現在、『レノファ山口FC』というプロサッカークラブで代表取締役社長をしています。その前は、プロサッカー選手として13年間活動していました。

これまでは選手という立場でしたが、いまは選手、スタッフ、アカデミー生の人生を背負っている覚悟があります。

22年度はクラブの売上が11億円を超えました。

ここからJ1を視野に入れ、さらに定着していくためには15、20億と大きな壁を超え、年間入場者数は1試合平均10,000人が中長期の目標です。この目標を達成するためにはクラブとして新しい事にチャレンジしていく姿勢や文化を醸成し、より魅力的なチームづくり、街づくりをしていきたいと考えています。



右から 渡部博文レノファ山口社長、長田僚友同窓会長、石山サッカーOB会長

中学校保健体育教員として、次世代を担う若者の育成に努めています。高校時代は、サッカー部主将として全国大会で活躍することを目指して邁進していました。そんな私が、現在は保健体育の授業を全国の先生方に向けて発表するという重責を担っています。高校時代には、全く想像ができなかった世界でした。

小学生の頃から体育の授業が好きで、中学、高校とその気持ちは更に強くなり、サッカー部の指導にも憧れを抱いたため、高校保健体育教員を目指しました。しかし恥ずかしながら、中学、高校時代は、生活の全てをサッカーに費やしていると言い訳をし、学習から逃げ続けていました。その結果、採用試験に合格し、「教諭」として教壇に立つまでに六年もの歳月が流れていました。一年に一度しかない試験に向けて懸命に勉強に勤しむ毎日、出口の見えないトンネルを走り続ける感覚で苦しかったことを覚えています。それでも諦めずに挑戦し続けられたのは、高校時代の厳しい練習に歯を食いしばって耐えた経験や、粘り強く自己研鑽した日々があったからこそと感じています。中学校教員として働いている今、思い描いた姿とは若干異なる形となりましたが、高校時代に培った、強く、しなやかな信念が、折れることのない自分の芯となっています。理想を追い求める、山形中央高校の信念を応援しています。

山形中央高校サッカー部OB会会長の石山廣昭です。

皆様方には、日頃よりサッカー部・サッカーOB会に對しまして、温かいご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。現在、OB会員は600名を超え、県内外においてそれぞれの分野で活躍しており、後輩のこれからの躍進に期待を寄せています。

今年の高校選手権では、是非とも県代表を掴み、全国大会での《山形中央高校旋風》を熱望するところです。

我々OB会の役割は、現役選手を支えるのが目的です。今後とも皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



1. 令和4年度（令和5年3月）卒業生進路状況

		大 学			短 期 大 学			専 門 学 校 等				就 職			他		合計 (卒業生数)
		国公立	私立	計	国公立	私立	計	看護 医療系	その他 専門	大学校等	計	民間	公務員	計	予備校	その他	
普通科	男子	25	43	68	0	1	1	3	4	2	9	0	1	1	0	1	80
	女子	17	36	53	5	3	8	3	6	0	9	0	3	3	0	0	73
	計	42	79	121	5	4	9	6	10	2	18	0	4	4	0	1	153
体育科	男子	0	40	40	0	0	0	6	5	0	11	6	4	10	1	0	62
	女子	2	7	9	0	2	2	4	1	0	5	1	0	1	0	0	17
	計	2	47	49	0	2	2	10	6	0	16	7	4	11	1	0	79
学 年	男子	25	83	108	0	1	1	9	9	2	20	6	5	11	1	1	142
	女子	19	43	62	5	5	10	7	7	0	14	1	3	4	0	0	90
	計	44	126	170	5	6	11	16	16	2	34	7	8	15	1	1	232
	%	19.0	54.3	73.3	2.2	2.6	4.7	6.9	6.9	0.9	14.7	3.0	3.4	6.5	0.4	0.4	100

■参 考

*平成29年度までは普通科5クラス、平成30年から普通科4クラス

令和3年度	38	116	154	7	8	15	15	24	4	43	5	8	13	6	0	231
令和2年度	43	111	154	9	10	19	21	19	3	43	8	8	16	8	2	242
令和元年度	53	97	150	11	7	18	22	15	0	37	11	10	21	7	0	233
平成30年度	46	120	166	1	10	11	16	17	3	36	13	10	23	7	1	244

2. 過年度との比較

○大学合格者数推移

*平成29年度までは普通科5クラス、平成30年から普通科4クラス

卒業年度	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 1	2	3	4
国 公 立 大 学	47	44	43	73	57	24	54	66	48	54	45	41	47
私 立 大 学	257	269	254	260	263	232	200	253	209	192	209	251	273

○県内大学の合格者数推移

卒業年度	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 1	2	3	4
山 形 大 学	25	21	16	34	26	8	30	22	15	21	21	14	20
県立保健医療大学	1	4	5	3	4	3	2	6	4	1	2	2	1
県立米沢栄養大学				0	0	0	1	1	2	1	2	3	2
東北芸術工科大学	10	2	12	17	5	17	7	2	7	2	1	6	9
東北公益文科大学	8	3	5	6	8	8	5	5	9	13	9	2	16
東北文教大学	5	1	9	12	9	6	7	10	8	15	3	3	5

3. 国公立大学等合格者・進学者数

国立大学

大 学	学 部	学 科	合格
北 見 工 大	工	地 球 環 境 工	1
秋 田 大	教 育 文 化	学 校 / 教 育 実	1
		学 校 / こ ど も	1
		地 域 文 化	1
		理 工 生 命 科 学	1
山 形 大	人 文 社 会	人 文 / 法 政 経	2
	地 域 教 育	地 域 / 児 童 教	1
		地 域 / 文 化 創	4
		理	2
	工	機 械 シ ス 工	3
		高 分 子 ・ 有 機	1
		化 学 / 応 用 化	1
		化 学 / バ イ オ	1
		情 報 / 情 報 知	1
		情 報 / 電 気 電	1
	工 フ レ	シ ス テ ム 創 成	1
	農	食 料 生 命 環 境	2
福 島 大	人 文 社 会	行 政 政 策 学 類	1
		経 済 経 営 学 類	1
		人 間 発 達 文 化	2

大 学	学 部	学 科	合格
茨 城 大	人 文 社 会	法 律 経 済	1
		人 間 文 化	1
筑 波 大	体 育		1
東 京 学 芸 大	教 育	教 育 / 生 涯 ス	1
新 潟 大	経 済 科 学	総 合 経 済	1
	工	工	1
	医	保 健 / 放 射 線	1
琉 球 大	農	地 域 農 業 工	1

公立大学

大 学	学 部	学 科	合格
岩 手 県 立 大	総 合 政 策	総 合 政 策	1
宮 城 大	事 業 構 想		1
	食 産 業		1
秋 田 県 立 大	シ ス テ ム	機 械 工	1
	生 物 資 源	生 物 生 産 科 学	1
山 形 県 立 米 沢 栄 大	健 康 栄 養	健 康 栄 養	2
山 形 県 立 保 健 医 療 大 学	理 学 療 法	理 学 療 法	1
神 奈 川 保 福 大	保 健 福 祉	社 会 福 祉	1
横 浜 市 立 大	国 際 教 養	国 際 教 養	1

【会計報告】

山形県立山形中央高等学校後援会 令和4年度収支決算書(案) (令和4年4月19日～令和5年3月31日)				
収入の部				
項 目	4年度予算額	4年度決算額	増 減	備 考
1 繰 越 金	2,654,329	2,216,400	0	
2 入 会 金	3,485,000	3,485,000	△ 30,000	15,000円×231名
3 維持 会 費	1,000,000	919,718	△ 80,282	振替手数料引き去り後の金額
4 総 会 費	1,000,000	789,000	△ 231,000	総会チケット代金、広告収入
5 繰 入 金			0	
6 雑 収 入	80,000	84,647	4,647	預金利子・会報誌広告・雑収入(CD等)
計	8,229,329	7,454,765	△ 336,635	
支出の部				
項 目	4年度予算額	3年度決算額	増 減	備 考
1 事 業 費	800,000	304,352	△ 495,648	各種事業費
2 運 営 費	2,200,000	2,122,693	△ 77,307	『後援』印刷・送付料 R4 8月発行
3 振 興 費	850,000	850,000	0	体育文化振興会費(学校へ)
4 部 活 動 激 励 金	500,000	500,000	0	部活動激励金(学校へ)
5 総 会 費	1,000,000	-	△ 1,000,000	
6 広 告 費	60,000	38,500	△ 21,500	事業広告
7 事 務 局 費	200,000	-	△ 200,000	
8 通 信 費	100,000	51,401	△ 48,599	光通信料、郵送料
9 会 議 費	-	-	0	
10 負 担 金	-	-	0	会合負担金
11 慶 弔 費	45,000	51,000	6,000	香典、餞別
12 事 務 補 助 員 費	329,200	329,200	0	事務補助員給与と一部負担
13 委 員 会 運 営 費	60,000	-	△ 60,000	
14 雑 出 金	-	-		
15 予 備 費	40,000	-	△ 40,000	
小 計	6,184,200	4,247,146	△ 1,937,054	
次 期 繰 越 金	2,045,129			山形県南支店普通預金、ゆうちょ銀行808店普通
合 計	8,229,329	4,247,146	△ 3,982,183	
繰越収入額		繰越支出額		繰越額
7,454,765	-	4,247,146	=	3,207,619
山形銀行寿町支店普通預金46582 ゆうちょ銀行858店一普通0906181				

山形県立山形中央高等学校後援会 令和5年度収支予算書(案) (令和5年4月1日～令和6年3月31日)				
収入の部				
項 目	4年度決算額	5年度予算額	増 減	備 考
1 繰 越 金	2,216,400	2,654,329	437,929	
2 入 会 金	3,485,000	3,525,000	60,000	15,000円×235名
3 維持 会 費	919,718	900,000	△ 19,718	会員振込
4 総 会 費	789,000	900,000	131,000	総会チケット、広告料
5 繰 入 金			0	
6 雑 収 入	84,647	70,000	△ 14,647	預金利子、CD売上、会報誌広告
計	7,454,765	8,049,329	594,564	
支出の部				
項 目	4年度決算額	5年度予算額	増 減	備 考
1 事 業 費	304,352	800,000	495,648	各種事業費
2 運 営 費	2,122,693	2,200,000		『後援』印刷・送付料
3 振 興 費	850,000	850,000	0	体育文化振興会費(学校へ)
4 部 活 動 激 励 金	500,000	500,000	0	部活動激励金(学校へ)
5 総 会 費	-	1,000,000	1,000,000	
6 広 告 費	38,500	60,000	21,500	事業広告
7 事 務 局 費	-	200,000	200,000	
8 通 信 費	51,401	100,000	48,599	光通信料、郵送料
9 会 議 費	-	-	30,000	
10 負 担 金	-	-	0	
11 慶 弔 費	51,000	50,000	△ 1,000	お祝い等
12 事 務 補 助 員 費	329,200	329,200	0	事務補助員給与と一部負担
13 委 員 会 運 営 費	-	60,000	60,000	
14 繰 出 金	-	-	0	
15 予 備 費	-	40,000	40,000	
小 計	4,247,146	6,189,200	1,942,054	
次 期 繰 越 金	1,511,584	1,860,129	348,545	
合 計	5,758,730	8,049,329	2,290,599	

男子バレーボール部

ジャパネット杯「春の高校バレー」第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会が第1月4日から東京体育館で行われた。1回戦は、昌平高校（埼玉）に2-0でストレート勝ちし、16強進出を決めた。次の3回戦では近江高校（滋賀）に0-2の負けを喫し、ベスト16となった。



令和4年度
部活動の
活躍

女子バスケットボール部

全国高校選手権（ウィンターカップ）は、12月23日東京体育館などで開幕し、4年連続4度目の出場となった女子の山形中央（山形）は1回戦で松江商（島根）と対戦。第3クォーター（Q）途中には一時22点差をつけられる劣勢をはねのけ山形中央75-69松江商で勝利した。15点を追う第4Qにゾーンプレスによるボール奪取から徐々にペースを握ると、五十嵐羽琉（3年）の3点シュートや下井陽和（2年）の果敢なドライブからのレイアップなど怒とうの得点ラッシュで逆転勝ち。3年ぶりの初戦突破を果たした。2回戦では、明星学園84-61山形中央は強豪・明星学園（東京1位）を相手に前半を36-37の1点ビハインドで終えたが、2戦連続の逆転勝ちとはいかなかった。

令和4年度3月卒業生の入会式が、2月28日（火）午前9時20分より第2体育館で行われました。式次第は次の通りです。

1、開会のあいさつ
2、会長あいさつ
3、校長祝辞
4、委嘱状交付
5、新会員入会のことば
6、記念品贈呈
7、閉会のあいさつ
幹事（普通科2名・体育科1名）は富樫美月、渡部永唯、伊藤悠哉の3名です。

評議員（クラス2名）は佐藤真遥、富樫美月、渡部永唯、荒井千皓、青山紗良、鈴木永唯、工藤美穂、鈴木彩穂、伊藤悠哉、石川楓、齋藤愛、廣夢、佐藤愛

第7回 卒業生入会式



感謝

令和4年度維持会費協力者211名

(令和4年4月～令和5年3月まで)

感謝

令和4年度維持会費協力者21名

(令和4年4月～令和5年3月まで)

第3回	齋藤 益子	第14回	大宮 則子	第20回	小笠原正道	第23回	石沢 章好	三品 誠	武田 佳彦	高橋善一郎	第41回	木村 泰大	第59回	片桐 夏海							
第4回	岡崎 順昭	佐藤 公子	北原 繁子	長田 真佐子	井上 敏彦	佐藤 郁子	井上 和行	國井 美奈	大滝 聡志	竹村 萌	第62回	武田竜太郎	第64回	武田竜太郎							
第6回	伊藤たみ子	米村 峰雄	斎藤 啓一	佐藤 純子	酒井 富一	本木 隆	野々村則夫	奥山 優	第65回	奥山 優	第66回	奥山 優	第68回	奥山 優							
第7回	三沢 幸雄	野口千津子	矢萩久美子	今野 市郎	逸見 正光	諏訪 洋子	菅原 斉	第44回	菅原 斉	第45回	菅原 斉	第46回	菅原 斉	第47回	菅原 斉						
第9回	寒河江 直	森谷 隆士	第21回	山内 定義	吉田 誠	工藤 哲	伊豆田弘樹	第48回	伊豆田弘樹	第49回	伊豆田弘樹	第50回	伊豆田弘樹	第51回	伊豆田弘樹						
第10回	鈴木 英行	山崎信一郎	第16回	武田 市則	齋藤知恵子	菱沼 敏	第24回	大友喜代子	相馬 敬子	窪田 篤人	第48回	多田 貞春	第50回	多田 貞春							
第11回	堀川つね子	第17回	井上 一郎	板橋 和子	菅井 隆	眞見 和樹	半田 明美	第50回	半田 明美	第51回	半田 明美	第52回	半田 明美	第53回	半田 明美						
第12回	加藤 温子	高梨加代子	第18回	青柳 初夫	柿崎 千恵	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子						
第13回	濱坂 邦明	岡田 圭司	第22回	岡野 比子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美						
第14回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛					
第15回	松田 勝彦	斎藤 徹	前田義次郎	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季				
第16回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁				
第17回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統				
第18回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子			
第19回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季			
第20回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美			
第21回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛			
第22回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁		
第23回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統		
第24回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第25回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第26回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第27回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第28回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第29回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第30回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第31回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第32回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第33回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第34回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第35回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第36回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第37回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第38回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第39回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第40回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第41回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第42回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第43回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第44回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第45回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第46回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第47回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第48回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第49回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第50回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第51回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第52回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第53回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第54回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第55回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第56回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第57回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第58回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第59回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第60回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第61回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第62回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回	結城美津子	第27回	熊谷 賢昭	第32回	悪原 明美	第33回	悪原 明美	第34回	悪原 明美	第35回	悪原 明美	第36回	悪原 明美	第37回	悪原 明美	
第63回	金沢 邦夫	会田 和男	草苺 典弘	澤渡 好子	三浦 薫	今田 猛	第55回	今田 猛	第56回	今田 猛	第57回	今田 猛	第58回	今田 猛	第59回	今田 猛	第60回	今田 猛	第61回	今田 猛	
第64回	平吹 和之	新宮 政利	武田 克美	漆山 信男	黒田 信幸	清野 開	會田 康仁	第65回	會田 康仁	第66回	會田 康仁	第67回	會田 康仁	第68回	會田 康仁	第69回	會田 康仁	第70回	會田 康仁	第71回	會田 康仁
第65回	長沼 清	鈴木 忠志	中村 一良	松木 俊和	青山 英朗	斎藤 純一	遠藤 一統	第70回	遠藤 一統	第71回	遠藤 一統	第72回	遠藤 一統	第73回	遠藤 一統	第74回	遠藤 一統	第75回	遠藤 一統	第76回	遠藤 一統
第66回	佐藤 敏明	安達 良子	小林 久夫	第25回	栗野 俊秀	新井 恵子	第53回	新井 恵子	第54回	新井 恵子	第55回	新井 恵子	第56回	新井 恵子	第57回	新井 恵子	第58回	新井 恵子	第59回	新井 恵子	
第67回	丹羽 裕子	第19回	岡田 圭司	鬼澤 祥子	高砂 厚子	馬場 貞子	椎名志津子	小田嶋亜季	第60回	小田嶋亜季	第61回	小田嶋亜季	第62回	小田嶋亜季	第63回	小田嶋亜季	第64回	小田嶋亜季	第65回	小田嶋亜季	
第68回	濱坂 邦明	岡田 圭司	鬼澤 祥子	東海林孝博	第26回																

※万が一誤字・脱字、お名前が記載されていない方は、お知らせ下さい。

「維持会費」納入のお願い

令和5年度運営費の納入に引き続き協力ください。
同封の振込用紙で、郵便局またはコンビニで納入くだ
さい。

僚友同窓会

〒990-2492 山形市鉄砲町2丁目10-73

山形県立山形中央高等学校内

TEL(023)641-7311 FAX 641-7313

TEL(023)641-7312 (担当 伊藤)

E-mail yamachudoso@amber.plala.or.jp

編
集
後
記

【Y・S】ニューノーマルでマスクは今もTPOで装着し、手洗いうがいはいは習慣化（より安全に？）。ポストコロナがより良く楽しい時代に進展します様に！

【J M K T】Withコロナと言われるから早2年。いつかの僚友同窓会では、300人ものが参加者がいたとかい
ないとか：甲子園にも行くとか行かないとか：

【R・N】昨年は、3年ぶりの総会開催。人と人とのつながりについていいなあと感じました。今年は更に盛り上がっていきましよう。

【Y・T】今年是一段と暑い山形になっています。Ryouyouも熱い情報をお届けするように頑張っています。ご期待ください。

【E・O】地区吹奏楽コンクールで本校吹奏楽部の演奏を聴いた。迫力ある質の高い演奏は、聴衆を圧倒！間もなく開催の県大会では明るく楽しく元気に金賞・全国大会を獲得してほしい！11月に23回卒の花の古希の会実施！是非、ご参加を！

【C・Y】先が見えないと思われたコロナ禍を何とか脱し、明るい兆しに勢いをつけてくれたWBC。数々の、スポーツの素晴らしさ、誇らしい日本人の姿を見せてくれました。その勢いとその姿勢をそのまま受け継いで、山形中央の生徒達、そして同窓生の皆様が羽ばたいて行くことを願って裏表紙をデザインしました。素晴らしき人生を皆様に。

※「Ryoyu」バックナンバーは僚友同窓会HPでご覧になれます。





60th Anniversary

おかげさまでジョイングループは
創業60周年を迎えました

大規模なご宴席から少人数様での
パーティまで幅広く対応できます

冠婚・葬儀・お祝いサポート
株式会社 **ジョイン**

PALACE GRANDEUR

OISEAU BLEU
レストラン

平安典礼

Food
Creation
Japan

SPECIALDAY Inc.
YOUR EVERYDAY IS COURTESY

株式会社 のぞみ観光バス

パレスグランデール

〒990-2432
山形市荒橋町1-17-40
TEL 023-633-3313
<http://www.palace-net.co.jp/>

大型駐車場完備
450台収容

心が動く。そこにリンベル。

心が動く、その瞬間にふさわしいギフトであるために。
ここでしか贈れない唯一無二の一冊をお届けします。

 RING BELL

リンベル株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-13-6

TEL 0120-378-877

リンベル

検索



2023
令和
5年度

山形中央高等学校 僚友同窓会総会

9/22(金) 18:15～
パレスグランデール

要予約 当日券はございません

- チケット7,000円
参加者受付中(締切り9月19日(火))
- 総会の担当幹事学年は、
59回・46回・35回卒の
3学年です。
- 卒業してから5年目、71回卒の方を無料
ご招待いたします。(出席される方は実
行委員会までご連絡ください)

Wonderful
(素晴らしい)
Brisk
(活発な)
Cell
(細胞の集まり)

めいせ日本一
令和5年インターハイ
陸上競技部
出場

めいせ日本一
令和5年インターハイ
柔道部
出場

めいせ日本一
令和5年インターハイ
男子バレーボール部
出場

めいせ日本一
令和5年インターハイ
柔道部
出場

めいせ日本一
令和5年インターハイ
弓道部男子
出場

【問い合わせ・申込み先】

山形中央高等学校 僚友同窓会総会実行委員会

TEL 023 (641) 7311・7312 (中央高 担当: 伊藤)

携帯: 080-1674-1356

